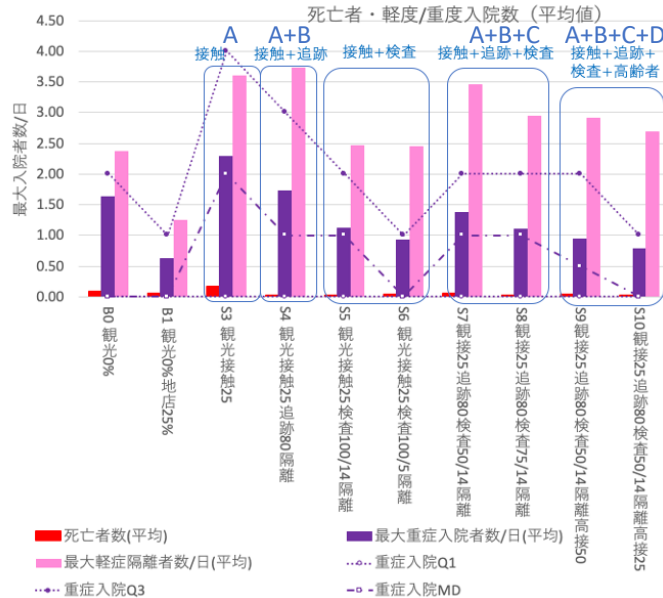


# 妙高モデル 観光地での感染防止策 (筑波大学 倉橋)

- 観光地への定期的な感染者流入が地域医療へ与える影響を個体ベースシミュレーションで評価 (人口構成詳細データを用いた妙高市1/5サイズモデルを構築、妙高市へ毎週1名の感染者が流入するリスクを評価)

## 観光地(妙高市)への感染者流入の影響比較



## 評価結果

(観光休止を基準として必要重症病床数で比較)

- 観光客との接触低減策25%(A) 3.7倍
- A+接触者追跡80%(B) 2.8倍
- A+B+高リスク接触者検査50%(C) 2.2倍
- A+B+C+高齢者接触減25%(D) 1.3倍

下記対策で観光休止の平均1.3倍 (最悪1.6倍) まで重症病床数を低減可能

- ✓ 住民の接触者追跡アプリ80%利用(B)  
(観光客は100%利用)
- ✓ 高リスク観光スタッフ5割への隔週ウイルス検査(C)  
(観光客と密に接触するスタッフ)
- ✓ 高齢者間の接触を25%まで低減(D)

毎週1名の感染者流入で3倍以上の重症病床数が必要になるが、追跡アプリ・高リスク者検査・高齢者保護で1.3倍まで低減